

むらづくりの羅針盤

第5次十津川村総合計画

平成29年3月



目次

はじめに

十津川の使命	1
--------------	---

第1章

十津川のむらづくり	3
-----------------	---

第2章

むらづくりの分野別方針	5
-------------------	---

第3章

むらづくりの戦略的プロジェクト	7
-----------------------	---

十津川の使命

一人ひとりを見つめるむらづくりにより、先人の千年の歴史を未来につなぐ

- ・十津川は、自主自立の精神のもと、互いに助けあい支えあい、山とともに生きる文化を築き、千年の歴史をつむいできました。
- ・国では、高度経済成長期からの発展を経て、成熟期に突入し、これまでに経験のなかった人口減少や高齢化が進行し、大きな転換期を迎えています。
- ・村は、全国に先んじて人口減少・高齢化が始まり、祭りや普請の維持の限界、空き家や廃校施設などの増加、移動の不便など、山中の集落での暮らしに直結する課題が迫っています。また、村を支える産業においては、その構造が大きく変化してきましたが、今後も、災害復旧の進捗や社会の情勢に伴い変化する可能性があります。
- ・私たちは、この成熟期において、これまでのような「発展」「成長」に捉われることなく、人口減少・高齢化を受け入れ、村民の暮らしと幸せを守るためのむらづくりをすすめます。
- ・そのためには、村に起こる現実に真正面から向き合い、村民の暮らしに寄り添い、一人ひとりの人生と心を見つめるむらづくりにより、先人たちが築いてきた千年の歴史を未来につなぎます。

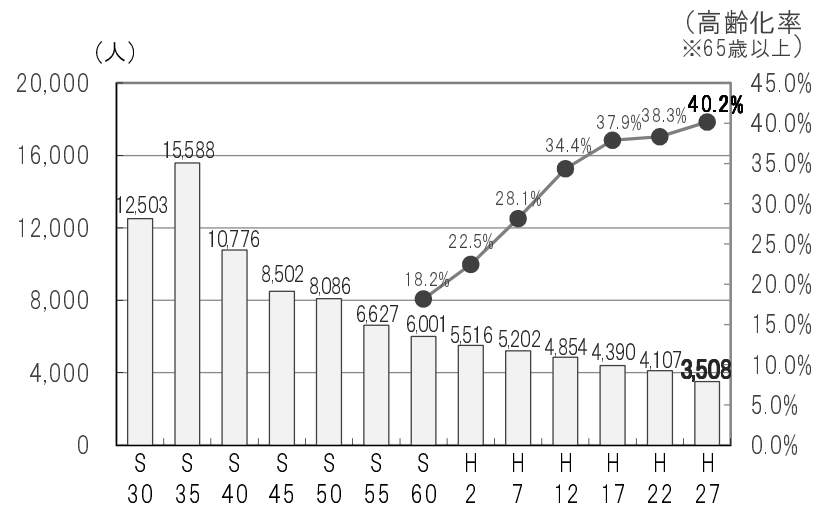


山々に囲まれる集落



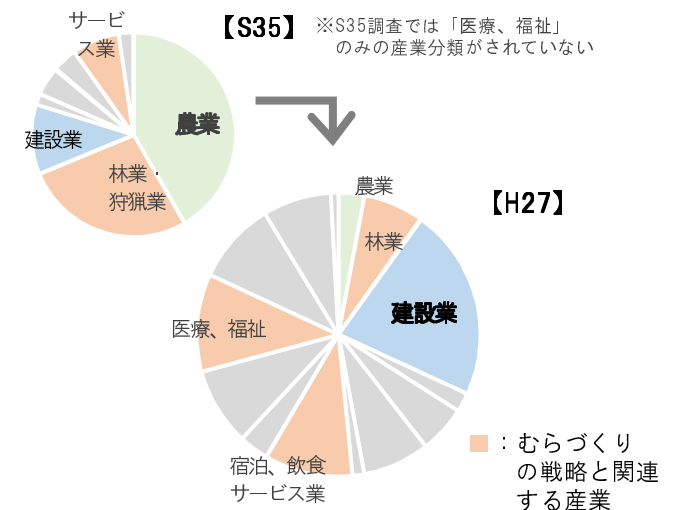
高齢化が顕著なへき地集落

○ 約50年前から人口減少・高齢化が進行



【資料：国勢調査】

○ 産業においてはその構造の変化が今後も見込まれる



【資料：奈良県統計年鑑（就業者数）】

① 助けあい支えあいの精神に基づき、自立した村の確立

- ・ 私たちは、自主自立の精神のもと、水や道を守る普請、野菜の融通など、互いに助けあい支えあって暮らしてきました。
- ・ しかし、集落の人が減り、空き家が増え、通院や買い物が不便になるなど、私たちの暮らしにおいて、孤独感や不安が感じられるようになりました。
- ・ そのような中でも、気丈に暮らす村民一人ひとりがつながり、安心して暮らし続けることができるよう、先人から引き継いだ助けあい支えあいの精神のもと、拠り所となる「村の芯」づくりをすすめ、自立した村の確立をめざします。



村民の暮らしを支える移動販売

② やりがい生きがいのある暮らしのための知恵と技、文化の継承

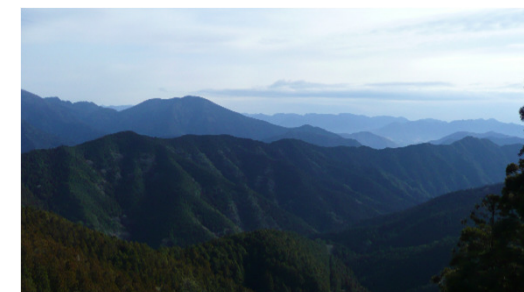
- ・ 私たちは、千年の歴史の中で、山とともに生きる知恵と技（業）を養い、先人から引き継いだ文化を心の拠り所とし、人と人がつながりあう暮らしを送ってきました。
- ・ 村民が十津川ならではの幸せを感じ、心身ともに健康に暮らし続けられるよう、暮らしの中でのやりがい生きがいをつくるため、新たな価値観も取り入れながら、村に生きる知恵と技、文化の継承をめざします。



暮らしの技を生かした散歩道の整備

③ 山への感謝の念を込めた自然と共生する暮らしの実現

- ・ 私たちは、山々に囲まれた自然環境の中で、水や作物、風景など、恵みと安らぎを享受し、暮らしや生業を通して、山に恩を返し、自然と共に生きてきました。
- ・ しかし近年、人と山の関わり合いが薄くなり、山が荒れ、自然災害や鳥獣被害などが増え、私たちの暮らしに不安をもたらしています。
- ・ 私たちは、山の民の責務として、むらぐらし、ひいては村・地球環境を守るため、山に対する畏敬(いけい)と感謝の念を込めて、自然を循環させることで山に恩返しをし、人と自然が共に暮らす共生の姿の再生をめざします。



村の96%を占める山

十津川のむらづくり

1. むらづくりの考え方(総合計画とは)

むらづくりにおいては、行政と村民・事業者・関係団体などが、むらづくりの方向や理念を共有し、心をあわせて国・県とともに取り組むことが重要です。そのため、村が歩む方向を共有するための「むらづくりの羅針盤」として、本計画を策定します。

本計画は、10年後の村の姿を考え、将来に備えた目標とそれを実現するプロジェクトなどを位置づけ、総合的かつ計画的な行政運営を行うための日々の行政の指針とします。

【計画期間】

平成29年度から平成38年度の10年とします。

ただし、施策や事業の進捗や社会状況の変化などに応じて見直しを行い、必要な場合には新たな計画の策定に着手します。

2. 十津川の目指す将来像

【目指す方向性】

「心身再生の郷」

恵まれた自然環境の中で、人間らしい生き方を求めて、本物の自然や文化との触れ合いを通じ、村民や客人との深い交流ができる**人本位の郷づくり**をめざします。

【むらづくりの理念】

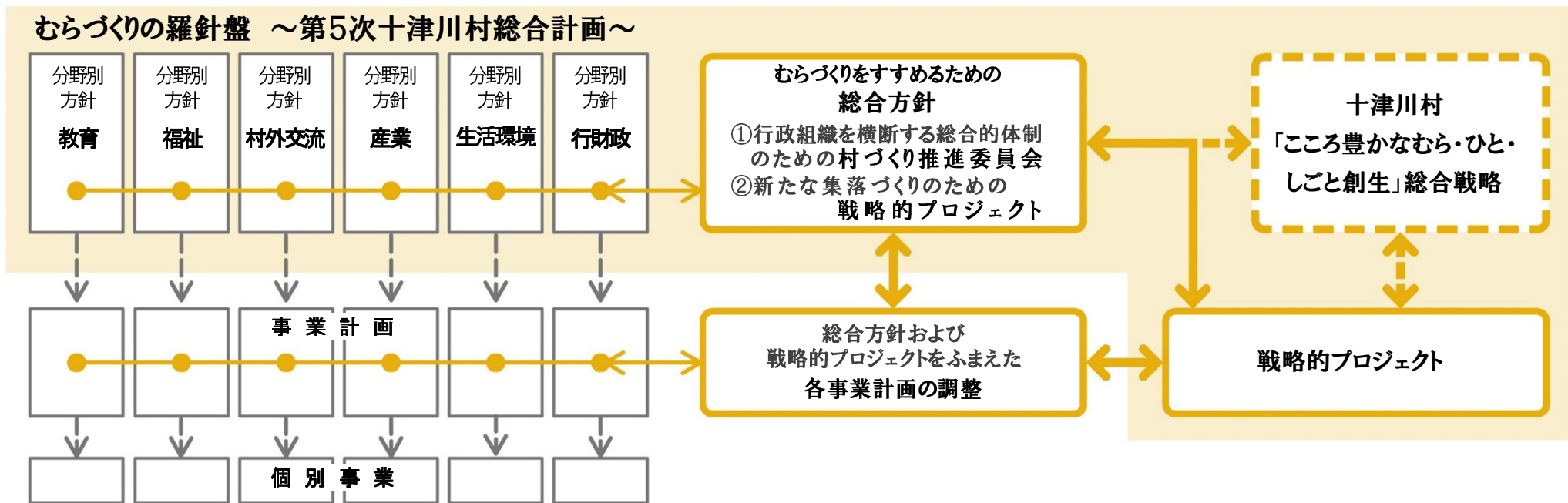
村の暮らしを支えている、十津川固有の風景に包まれた森林・文化・村民の絆などの村の宝を未来に引き継ぎ、**村民が豊かに、幸せに暮らし続けていくことができる村の維持、再生、成熟**をめざします。

3. むらづくりのすすめ方

村の目指す将来像を実現するため、“十津川村「こころ豊かなむら・ひと・しごと創生」総合戦略”※1に沿って、次のとおりのすすめ方で、この計画を実行します。

- ① 村の宝を引き継ぎ、村民同士が助けあい、支えあう暮らしを守って村を維持再生するために、すでに紀伊半島大水害からの復興より取り組み始め、高森と谷瀬で先導的に実現し始めている「村の芯」づくり事業を参照しながら、**村の7区全体において村づくりの理念の実現**をめざします。
- ② むらづくりの理念の実現のためには、行政の各分野に分け持たれている施策や事業の連絡調整を図り、村の戦略に沿って各集落の事情に合わせながら、**分野横断的かつ総合的に取り組む**必要があります。
- ③ そのため、本計画では、行政各分野における包括的な計画だけではなく、各行政部門の協働が必要な**戦略的なプロジェクト**を取り上げます。また、このプロジェクトの実施にあたっては、**村の風景を維持、再生できるようなデザインへの配慮**を行います。
- ④ これらのプロジェクトが、村長の指揮の下、役場の組織を横断し、村民とも協働して実現できるような**総合的な取り組みの体制を構築**します。

※1：国の「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、村の活性化を目指した地方創生に関連する理念や取組を位置づけた計画（平成28年3月策定）。



むらづくりの分野別方針

<教育> 教育・生涯学習の推進

村の宝を一人ひとりが継承し、人間力・個性・村愛精神を養う
教育・生涯学習をすすめ、やりがい生きがいのあふれるむらづくりをすすめます

子育て・教育	豊かな自然と地域ぐるみで健やかな成長を育む就学前教育の充実／ 伝統と知恵を育む村ならではの学校教育の推進／ 教育関係施設の充実・地域開放／ 子どもの放課後の活動等に応じた交通体制の充実／ 地域ぐるみの子育て環境づくり／村での学びを望む子どもの支援の推進
生涯学習・生涯スポーツ	村民の生きがいとなる自主的な生涯学習活動の推進／ 多様な生涯スポーツの推進
文化	文化財等の歴史的資源の保存と多様な活用／ 文化的資源を活かした文化交流の推進
人権	互いを尊重しあう人権教育の推進

<福祉> 助けあい支えあう地域福祉の向上

村民誰もが健康に安心して暮らし続けられるよう、暮らしを支えるサービスを
連携させるとともに、村民みんなが互いに助けあい支えあうむらづくりをすすめます

福祉	地域での暮らしを支える福祉サービスのネットワーク化／ 高齢者のやりがい生きがいづくり／障がい者の自立した生活の支援／ 安心して子育てのできる児童福祉の充実／ 安定した生活と自立を促す母子父子福祉の推進／ 低所得者の安定した暮らしを目指す支援の推進／ 地域で助けあう福祉体制づくり
保健・医療・社会保障	村の資源を活かした健康増進の推進／ 村民が安心できる医療・保健の体制づくりの推進／ 健康増進の取組等による医療保険の健全化

<村外交流> 村外から人を迎え入れるしくみの構築

村外に対する発信力を高め、村内で求められる人材や村に惹かれる人、
村出身者をつなぎ、村外から人を迎え入れるしくみの構築をすすめます

移住	移住者を呼び込むしくみづくり／ 移住者を地域で迎え入れる環境づくり
村外への発信と連携	村の魅力を伝える広報活動の推進／ 人材を求める村内の情報集約・発信の強化／ 村外との交流・連携による産業活動等の展開
村外からの支援	大学等と連携した取り組みの展開／ 村外の専門家等による専門的支援の推進／ 村出身者やその他支援者とのネットワークづくり



村ならではの学校教育(ふるさと学)



スポーツの推進(温泉プール)



高齢者のやりがい生きがいづくり



地域に出向く出張診療



地域活動における大学生らとの交流

<産 業> 村の資源を活かした産業の振興

村のあらゆる宝を最大限に活かして地域内循環を促すとともに、
村ならではの生業で「十津川ブランド」の確立をすすめます

自然活用型産業	林業の6次産業化の推進／鳥獣害対策とジビエ活用の推進／ 伝統的農作物等の生産・加工・販売の推進／後世に引き継ぐ森林・農地の再生／ 漁業環境と加工品づくりの支援
交流産業	あらゆる観光資源を活かした村ならではの魅力の創出／地域によるおもてなしの観光づくり／ 温泉街と観光拠点の魅力向上／観光拠点を結ぶ回遊ルートにおける交通の充実と魅力づくり／ 村外へのあらゆる手段を使った情報発信の強化／村内外の団体等との連携と協働の推進
商工業	商業事業者の継続支援と村内外の技術等を活かす新サービス開発等の支援／ 工業における村ならではの商品開発等の支援
産業環境	村の資源を生かした新たな産業興しの支援／村の産業における後継者の育成

<生活環境> 安心・安全な生活環境・基盤の充実

生活の基盤を守り、村ならではの暮らしの魅力を高め、村民が安心安全・心豊かに暮らし続けられるむらづくりをすすめます

道路・交通	道路等の整備による生活基盤の強化／林道整備による林業基盤の強化／ 生活拠点と集落を結ぶ交通機関の再編
生活環境等	上水道の整備の推進／安心して暮らせる環境衛生の推進／墓地・葬儀場・火葬場の検討／ 河川環境改善の推進／森林・自然環境の保全・再生／集落風景の保全・魅力化／ 自然資源を活用したエネルギーの域内循環のしくみづくり／ 住宅の維持・整備と住環境整備の強化／生活スタイルや使い方にあわせた空き家活用の推進
消防・救急・防災	地域での支えあいを基本とした消防・防災体制の充実／ 県や隣接市と連携した救急・緊急体制の強化／公共施設の災害時の拠点機能の強化
地域活性化	地域独自の活動と地域間交流の促進

<行 財 政> 行財政の再生

役場、村民、関係団体、事業者等が“村一体”となってむらづくりをすすめます

行財政	計画の継続的な進行管理／機構改革の推進／役場の人材の育成・確保／ 健全な財政運営／ 既存施設の活用等による公共施設の再編
広域行政	県や近隣市町村との連携による広域行政の展開
住民参加	村民と連携したむらづくりの展開／ 村内関係団体との情報交換・連携の強化



源泉かけ流しの温泉



十津川材をいかす家具と住まい



集落づくりによる魅力的な風景(高森)



へき地の交通対策(デマンドタクシー)



集落主体の地域活動(谷瀬)

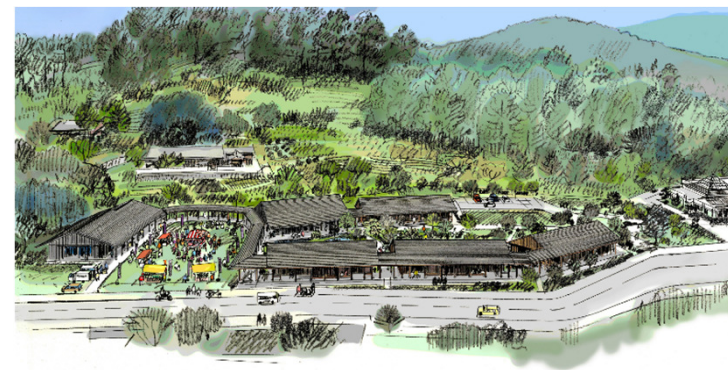
戦略的プロジェクト

むらづくりの

住み続け住み^お了える暮らしプロジェクト

村民が村内に住み続け、また山を降りた人々の里帰りを促し、安心して住み了えるための方策をつくり
ます

- 在宅医療・介護(予防)プロジェクト※1
- 高齢者のやりがい生きがいづくりプロジェクト
- 定住の住まい・環境づくりプロジェクト
- へき地集落の暮らし再生プロジェクト※2
- 庁舎再生プロジェクト
- 交通環境再編プロジェクト



- ※1：医療・介護サービスを充実・ネットワーク化し、地域で互いに支えあい、
最期まで安心して暮らし続けられる環境づくりをめざすプロジェクト
※2：日常の買い物や通院等をサポートし、へき地集落の村民が住みなれた
地域で暮らし続けられる環境をめざすプロジェクト

助けあい支えあいながら暮らす高齢者福祉の
モデルプロジェクト「高森のいえ」
(イメージ・平成29年3月完成予定)

村内外から呼び寄せ、つきあい・ふれあう場プロジェクト

村外から人を呼び寄せる方策と暮らし続けてもらうための環境をつくとともに、集落・村内の人や
移り住んだ人が集い触れ合う場、旅人が居心地よく溶け込める場を確保します

- 文化財再考プロジェクト
- アート回遊観光プロジェクト※3
- 村外から人を呼び寄せる移住誘致プロジェクト
- 公共施設再編プロジェクト
- 土捨場跡地の活用プロジェクト※4



文化財の活用(旧武蔵小学校)



移住者の村暮らし体験(もちまき)

- ※3：村の自然環境と融合するアートによる、回遊できる観光の確立をめざすプロジェクト
※4：村内において希少な平坦地である土捨場跡地について、産業振興や雇用創出に
つながる施策や住宅地等への活用の方向性を検討するプロジェクト

村ならではの子育て・教育環境プロジェクト

都会の文化に染まらない、心身ともに健康な村ならではの育てと教育方策、さらには世代間断絶を埋める社会教育の場をつくります

- 地域内子育てプロジェクト
- 十津川ならではの教育確立プロジェクト
- 十津川高校と連携した生業の継承プロジェクト



保育所での交流会



高校生らに技を継承する木工拠点(山崎)

生き続ける森林の育成プロジェクト

村の森林再生を第一目標として、近視眼的な採算にとらわれない木材の多目的利用を積極的に促す林業6次産業化のしくみを確立します

- 森林再生プロジェクト
- 林業6次産業化プロジェクト



適正な間伐による森林の再生



十津川材の遊具(天王寺公園でのPR)

村から生み出すエネルギー源プロジェクト

用材の多目的利用であるバイオマス等により、電力・熱源の自給による地域内循環のしくみをつくります

- 地域内のエネルギー循環プロジェクト



木材により風呂をわかす薪ボイラー



水車の力で発電する小水力発電

神秘性ある秘境への旅人招致プロジェクト

村の森・川・温泉等の自然環境に恵まれ、山に対する畏敬(いけい)の念と感謝の心に包まれる、神秘性のある秘境を活かして旅人を招く方策を確立します

- 十津川温泉郷の回遊できる温泉街づくりプロジェクト
- 十津川温泉郷湯治プロジェクト
- 十津川食材を活かす“十津川もん”づくりプロジェクト
- 十津川の自然体験型観光の確立プロジェクト
- 村民“おもてなし”型観光確立プロジェクト



十津川の新鮮な食材を販売する朝市



世界遺産を使ったトレイルランニング

検討体制

【十津川村総合計画審議会】

(順不同)

所属	職名	氏名
葦原計画事務所	代表	葦原 敬（審議会会長）
十津川高等学校	校長	西田 敏夫
十津川村商工会	会長	古田 雅文
十津川村観光協会	会長	田花 敏郎
十津川村森林組合	代表理事組合長	松葉 正久
十津川村社会福祉協議会	事務局長	前砂 見
南都銀行十津川支店	支店長	三毛 邦彦
新宮信用金庫十津川支店	支店長	阪口 義房
十津川村区長会	会長	栗栖 規
十津川村婦人会	会長	田中 雅美
十津川村老人クラブ連合会	会長	入鹿 孝
十津川村青年団	団長	平瀬 元貴

【業務受託者】 株式会社 市浦ハウジング&プランニング

【業務受託協力者】 株式会社 環境設計研究所

検討経緯

	開催日	主な議題
第1回	平成28年12月19日	<ul style="list-style-type: none">・ 第5次十津川村総合計画策定に向けて・ 十津川村総合計画骨子（案）について・ 十津川村総合計画分野別方針（素案）について
第2回	平成29年 1月27日	<ul style="list-style-type: none">・ 十津川村総合計画骨子（案）について・ 十津川村総合計画分野別方針（案）について・ 戦略的プロジェクト（案）について
第3回	平成29年 2月20日	<ul style="list-style-type: none">・ 十津川村総合計画（案）について

発行元 十津川村地域創生推進課

〒637-1333 奈良県吉野郡十津川村大字小原225-1

電話 0746-62-0910 FAX 0746-62-0210

<http://www.vill.totsukawa.lg.jp/>

平成29年3月初版